

燃料電池、小型化メド

固体酸化物型 セ氏300度で作動

阪大など

点がある。

阪大などの研究成果を取り入れてセ氏300度で作動する電池を作れば家庭で使える小型発電システムを作れる。これまでも低い温度で作動するため、電解質の劣化や損傷もおさえられる。

見本

大阪大学の笠井秀明教授らは1日、九州大学やコニカミノルタと共同で将来の燃料電池として期待される「固体酸化物型燃料電池」を小型化する技術を開発したと発表した。これまでの「固体酸化物型燃料電池」は発電効率が45〜65%程度と高く、家庭や電気自動車として期待を集めている。ただセ氏700〜1000度に加熱する必要がある。大阪大学の石原達己教授らが開発した金属のサマリウムやセリウムを含む電解質をコンピュータで解析したところ、特定の方向に4%圧縮する要で発電システムが大型化する。高コストになる欠

にしか使えなかったが、小型化すれば一般家庭でも使える。九州大学の石原達己教授らが開発した金属のサマリウムやセリウムを含む電解質をコンピュータで解析したところ、特定の方向に4%圧縮する要で発電システムが大型化する。高コストになる欠